

世界で躍動する グローバル模倣品対策委員会！！

グローバル模倣品対策委員会 委員長

餅田 義久 氏

(所属：株式会社 サカタのタネ)



interview

自己紹介

「花は心の栄養、野菜は体の栄養」という企業理念の下、世界中に花や野菜のタネを届けている会社に勤めています。気が付けば、当社の野菜（エースはブロッコリー）や花（トルコギキョウなど）が大のお気に入りになっています。

委員会内での真剣な議論や、各国の行政機関との息詰まる意見交換の後、仲間と酌み交わし語り合う時間が最高のご褒美だと思っています！

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

弊社の製品は、野菜や花のタネであり、世界中に届けられています。同時に、世界中で何かしらのトラブルが報告されてきます。（アフリカのA国で商標権が侵害されている！ アジアB国で当社のブロッコリー侵害品が販売されているが、流通もとは北米のC国らしい…、インターネットの有名サイトで、無断増殖された当社のタネが販売されている！など）

当委員会に参加されている各社メンバーも、やはり同様な事が生じており、世界中で模倣品対策が必要になっています。本年度は、模倣品対策が特に必要だと委員が感じているアジアや中南米における対策に力を入れたいと思っています。

Q 委員会の特長/魅力は？

- ・模倣品対策を中心とした、知的財産の活用について、深い議論ができます！
- ・多彩なバックグラウンドを持った委員の皆様と出会えます。
- ・模倣品対策について、個社で悩んでいる事について解決策が見つかるかもしれません。

業界が違っていると、研究対象となる国や地域、もちろん製品も異なります。また、模倣品対策の方法論も異なります。そして、参加

される委員の多くは、その業界の模倣品対策に精通しています。それ故、少し他社事例を聞いたり、意見交換をしたりすると、今までには無い視点や方法が見えてくることもあります。全員の知恵を合わせると、模倣品の対応策が無数の組み合わせになりそうな気配すらします。

また、何と言っても当委員会は実際に現地を訪れて、関係当局や代理人と様々な議論を行う事が出来る事が特長であり、魅力だと思います。模倣品についての実態を確認し、行政機関やEコマースPlatform等に、直接改善提言を行う事が出来る点は、個社ではなかなか叶わないことだと思います。その意味でも、JIPAの名の下で活動できる当委員会での活動は、意義深いと同時に責任ある行動が求められるとも感じています。

Q 委員会としてのこだわりは？

我々は、“グローバル”と名の付く委員会です。世界の方々と良好な、責任感あるコミュニケーションを行う事を心がけています。

例えば、訪問団では相手方のホームで、数多くの政府高官や、特許庁長官に対し、模倣品対策の改善を申し上げる事が多く、緊張感満載です。そんな中、模倣品対策は相手国にもメリットがある事（国際信用度の向上、US301監視国からの除外等）をアピールしつつ我々の意見が受け入れられる様にしています。一方的な押し付けにならない様なコミュニケーションを重視しています。

また、我々は実務家の集団として、模倣品対策の実効性にこだわっていきたいと思います。

法律や制度が整っているだけでは、模倣品対策はできません。参加委員の困りごと＝日本企業の困りごとだと思い、いかに“ツボに効く対策”を打てるかにこだわっています。とにかくやることは沢山ありますが、少しでも前進していきたいと思っています。